



## 第34停泊所

2026年4月18日  
責任者: 山口 明日波  
編集者: 杉野谷 武市  
乙幡 雅貴  
山口 明日波

# 活動家労働講座とは？

25賃金確定闘争では、中高年齢層含め一定のベースアップはありました。しかし、加速する物価高騰により実質賃金は目減りし、依然として私たちの生活水準は厳しい状況に置かれています。青年部は改めて「賃金は労働力の再生産費である」という原則に立ち返り、生活実態に見合った正当な対価を勝ち取るため、全組合員の声を集約し、取り組みを強化していきます。一方で、職場環境の悪化も深刻さを増しています。当局による委託化の推進や直営体制の縮小といった「合理化攻撃」により、公共サービスの在り方が問われています。現場では欠員補充がなされないまま、過度な労働による怪我や病気の発生、そして精神的なゆとりの喪失が顕著になっていきます。また近年、頻発する自然災害などの有事において、即座に対応できる直営職員の「現場力」の重要性はかつてないほど高まっています。良質な公共サービスを安定的に提供し続けるためには、労働条件の維持・改善が必要不可欠です。青年部は「健康で安心して働ける職場」の実現を目指し、活労講を開催しています。

ここ数年、各区における継続的な新規採用により、青年部組織は着実にその規模を広げています。こうした新たな仲間を巻き込みながら、今後長きにわたり清掃事業を担う若い力が、労働運動への「気づき」と「学び」を共有することはとても重要です。活労講の大きな目的の一つは、職場単位に留まらない「横のつながり」の構築です。異なる現場で働く仲間との交流を通じ、「自分の職場の当たり前は、他人の当たり前ではない」という客観的な視点を養うことを目指しています。青年たちが直面している共通の課題や問題を整理し、一人ひとりが自らの職場から運動を展開していく。その一歩として、本講座は重要な結節点となります。

「活動家」ってどんな人？

「活動家」って聞くと、少し身構えてしまうかもしれません。「何か特別な思想を持っている人？」「いつも怒っている人？」・・・いえ、実は全く違います。労働組合における「活動家」とは、一言で言えば職場の困りごとが一番に気づき、仲間のために**一歩を踏み出せる人**です。私たちは日常の仕事の中で、悩みや不安を抱えていることがあると思います。あらゆる課題に対し解決に導こうとする人、それが活動家です。一歩踏み出して学習会などに参加しようと思った時点で、君も活動家だ！！



過去の活労講の風景！



## 第58回全国青年団結集会

第58回全国青年団結集会が2月14日～15

日で鳥取県米子市にて開催されました。

今回は単組として23名の仲間が参加をし、

職場実態の共有や特別講演で学んできました。

集会のスローガンは「職場・産別を超えた青年

の共闘で春闘に勝利し、大幅賃上げを勝ち取る

う！」でした。

参加した仲間の声です。

「自分たちは思っている以上に恵まれている。今の環境を維持するためにより一層団結し、仲間との繋がりを強化していくことが大切。」

「分業化された今だからこそ、困った時に相談してみようと思える組合が必要で日頃から話しやすい体制が欠かせない。」

「集会全体を通して感じた違和感や気づきを大切にしてさらなる改善を求め、声を上げ続ける必要がある。」

「分散会を通して、各産別で人員不足と業務量増加の課題があり、一部の職員に過度な負担を担わせ心身の健康に影響を与え、結果としてさらなる負担が発生していることから、仲間との繋がりの必要性を感じた。」

ぜひとも、参加した方は各支部にて他の産別現状を仲間に共有してほしいです。



- 1日目  
13:00 受付  
13:30 挨拶・基調提案  
14:00 特別講演  
15:00 移動→分散会  
分散会中に弁当配布  
18:30 分散会終了
- 2日目  
9:00 分散会開始  
11:00 分散会終了→移動  
11:30 特別講演  
12:00 集会まとめ・宣言  
インターナショナル  
団結ガンバロー  
12:30 閉会

全国青年団結集会ってどんなスケジュールなんだろう  
(今回の団結集会のスケジュールです。)

次回はあなたも参加してみよう！！



## もし、大災害が発生したとき あなたはどうしているの？

知つての通り、災害はいつ、どこで起こるか分からない。地震、台風、大雨、火災——その瞬間、私たちは何を思い、どう行動するのか。「災害が発生した時、あなたはどのようにしているのか」東日本大震災から15年経過した今だからこそ、日常の備えと非常時の行動を見つめ直す必要性が清掃労働者に問われているのではないのだろうか？

私たち清掃職員は…

もちろん、ルールは自治体によって異なる。『働いているときなのか、帰宅後なのか』自分がどのような行動をしなければならぬのか？ぜひ、この内容をきっかけに職場での確認と職場の仲間と議論してほしい。そのうえで、私たちの『今』の働き方は有事があった時に適切な対応ができるような働き方なのか？もし、日常業務に忙殺されるような作業実態があるのであれば、それらを改善しなければならぬ。このように、日常だけでなく、有事の対応ができる働き方について、区民サービスの一環と捉えた議論を労働組合、青年部、一人の働くものとして真剣に進めていく必要がある。

### 発災時、私たちの労働条件はどうなっているのか？

#### “実態は非常に残酷である”



災害対応した職員の

メンタルケアが必要？

住民を救わなければならない強い正義感、被災地の凄惨な様子、公務員というだけで、休みなく働かなければならない実態から、精神疾患を患ってしまう職員が多くいるということを知っておかなければならない。最悪の場合、当事者が退職を余儀なくされる仲間の実態もある。だからこそ、有事を想定した人員確保ができてきているのか、緊急時に対応できる準備ができてきているのか、身近な仲間との日常的な会話が重要である。

#### その時、行動できる自分であるために再確認

災害時に最も重要なのは「最初の一步」。慌てず、冷静に行動するためには、“平時の準備”が欠かせない。

**家庭での備え：**非常食・飲料水・懐中電灯・モバイルバッテリーの常備

**避難経路の確認：**家族全員で避難場所と連絡方法を共有

**地域とのつながり：**自治会や防災訓練への参加で、助け合いの輪を広げる

災害は身体だけでなく、心にも大きな影響を与える。ストレスや不安を軽減するために、日頃からリラックス法を身につけておくことが大切だ。深呼吸、音楽、読書など、自分に合った方法で心を整える習慣を持つ。「災害が発生した時、あなたはどのようにしているのか」という問いは、単なる防災意識の確認ではない。自分と家族、地域社会の命を守るための行動指針を考えるきっかけである。備えは“今”から始められる。